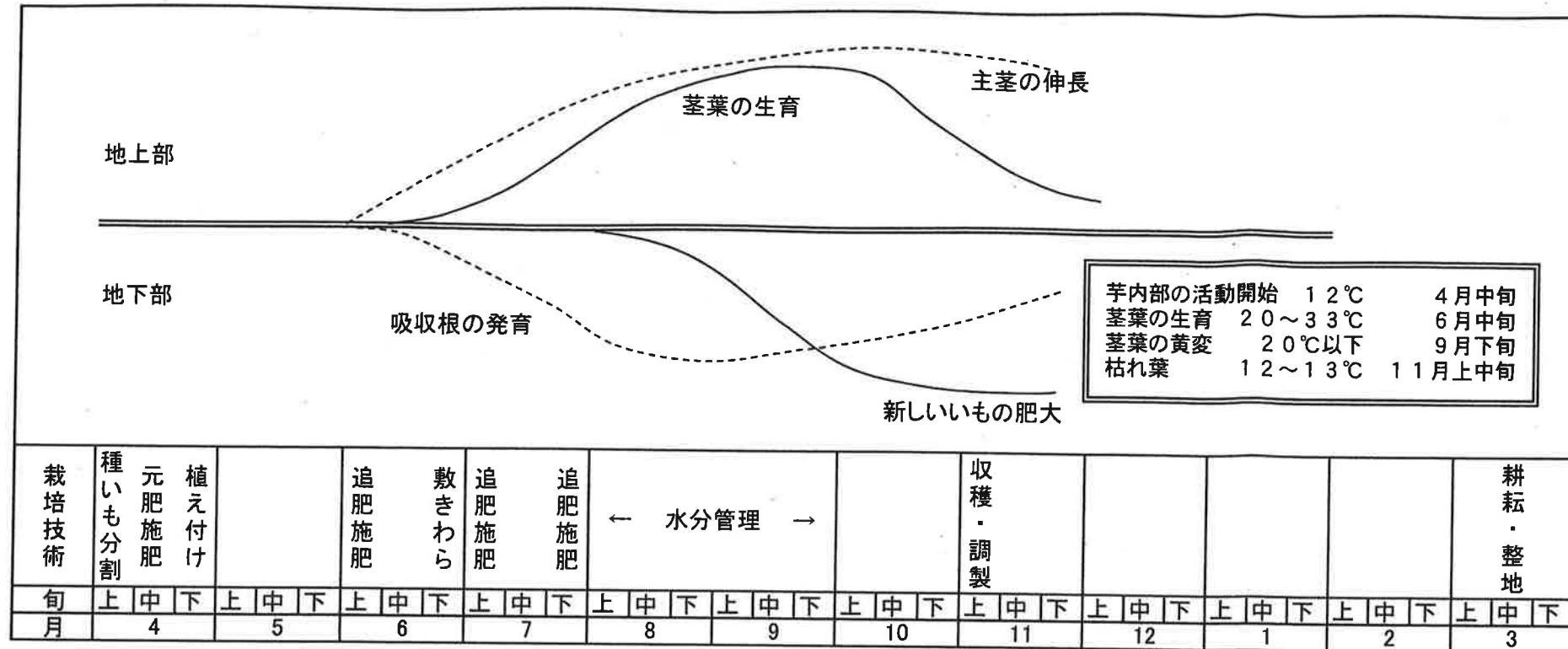


黒部丸いも栽培こよみ



1. 栽培適地の選定

- 日当たり良好で、保水力が有り排水性が良く、灌水しやすい圃場(乾湿の差がでない圃場)
- 耕土が深く、砕土率の良い圃場で、連作は避ける。

2. 種いもの分割

- 300～400gの形の良い芋を使用。(10a当たり300kg)
- ツル部の飛び出た芋を使用。凹んでいる芋は使用しない。
- 種いもの分割は3月中旬～4月上旬に行う。

【分割の方法】

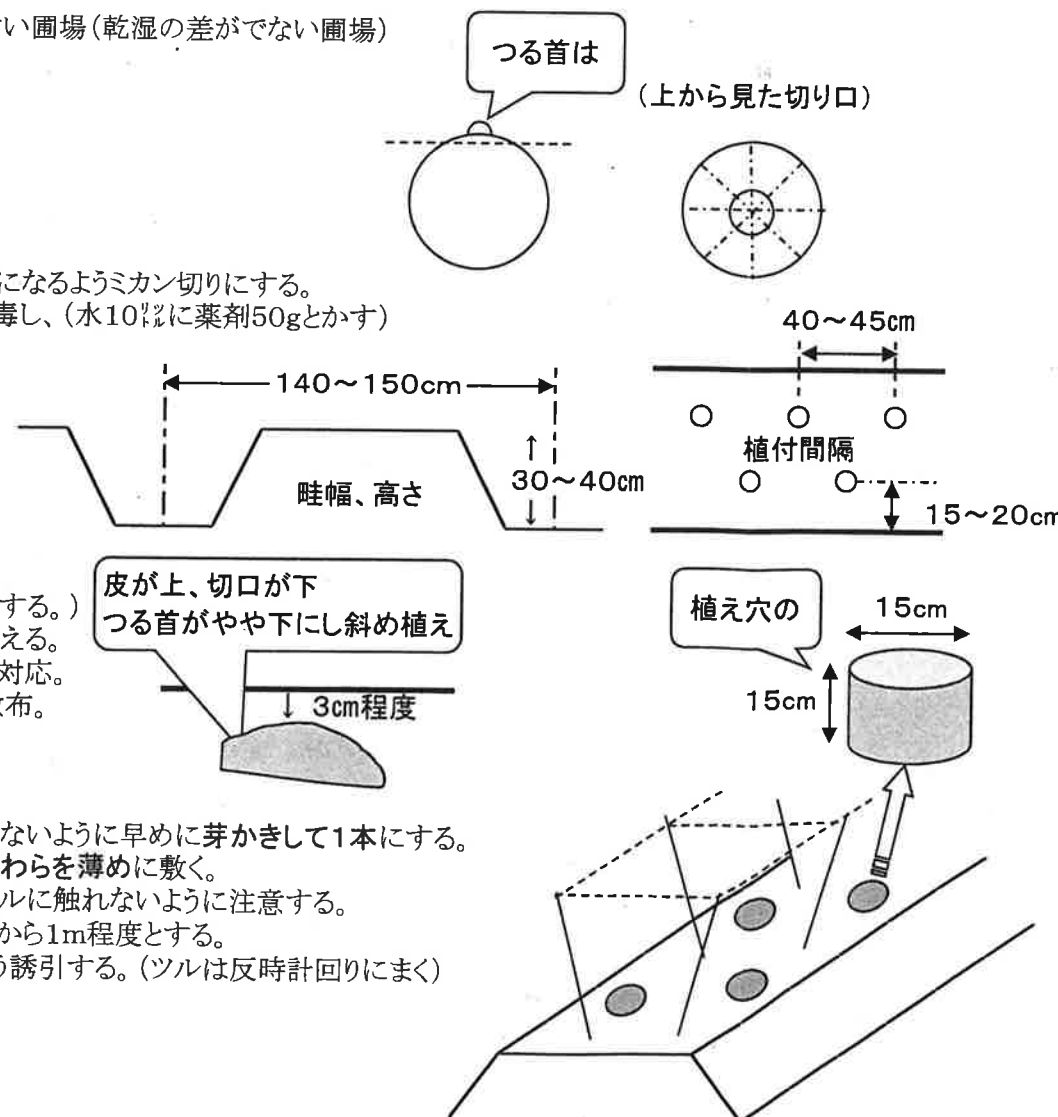
- 種いものツル首(頂芽)を取り除き、1個60g程度の大きさにようミカン切りにする。
- 分割後、ベルコートフロアブル200倍液で10分間浸漬消毒し、(水10%に薬剤50gとかす)日陰で十分乾かす。

3. 植え付け

- 気温が13～15℃の時期に植え付ける。
- 畦は崩れないよう固く作る。(芋の形が良くなる)
- 畦肩から約15～20cmのやや中央に植え付ける。
- 栽植密度 畦幅140～150cm 株間40～45cm
2条千鳥植え 3,200株/10a
- 植え穴は細かく砕土する。(砂壤土以外では、山砂を客土する。)
- 次年度の種いも確保のため特に品質の良いものは別に植える。
- 植付前と畦間雑草はブリグロックSL(収穫30日前まで)で対応。
- 植付直後にクレマトU粒剤かトレファノサイド粒剤2.5を散布。土壌が適度に湿った時に散布する。

4. 本田管理

- (芽かき) 1個の芋から数本萌芽してきた場合は、傷めないように早めに芽かきして1本にする。
- (敷きわら) 7～8月の乾燥を防ぐため7月上～中旬頃にわらを薄めに敷く。
- (支柱立て) 新しいわらははツルやけを起こしやすいのでツルに触れないように注意する。
- 萌芽期までに設置を終え支柱の高さは畦面から1m程度とする。
- 上部に紐をはり、ツルが茂って日陰になるよう誘引する。(ツルは反時計回りにまく)



5. 施肥設計(例)

肥料名	総量	基肥	(kg/10a)			N-P-K
			追肥1 6月上旬	追肥2 7月上旬	追肥3 7月下旬	
マグフミン	100	100				
B M ようりん	20	20				0 - 4 - 0
菜種かす	80	80				4 - 4 - 1.6
根菜1号	60		60			7.2 - 9 - 7.2
J T 特10-1号	120			60	60	12 - 12 - 12
硫 加				20		0 - 0 - 10
合計						23.2 - 29 - 30.8

- ※堆肥を投入する場合は、前年の秋のうちに施用する。
- ※pHは6.0～6.7が望ましい。

- (水管理) ○7月は根を伸長させるため極端な乾燥時以外は、灌水を極力控える。
- 8～9月の芋肥大期は水が適度ないと形状が乱れる。乾く日が続くときは朝か夕刻に走水を行う。(水深1～3cm程度たまったらすぐに落水)
- 9月下旬以降は、排水に努める。

6. 収穫

- 収穫は11月上旬に茎葉が完全に枯れあがってから2週間以上たってから掘り取る。早掘りはアクの元になるので注意!
- 次年度の種いもは適度に湿らせたおがくずの中で乾かないように気温が5℃以上10℃以下になる場所で保管する。

病虫害防除

平成27年3月現在					
時期	対象病虫害	対象薬剤	使用時期	倍率等	備考
種芋消毒 3～4月	青かび病	ベルコートフロアブル	植付前	200倍	10分浸漬
	ネコフセンチュウ	ネマトリンエース粒剤	植付前	20kg/10a	1回以内
5～9月	葉洗病、炭疽病	ジマンダイセン水和剤	収穫21日前	400～600倍	4回以内
		ベルコートフロアブル	収穫7日前	1000倍	4回以内
		ダコニール1000	収穫30日前	1000倍	6回以内
		トップジンM水和剤	収穫7日前	800倍	5回以内
5～9月	コガネムシ類幼虫 アブラムシ、アザミウマ類 ヤマノイモコガ ハダニ類 ハダニ類 シロイモジヨウ	アミスター207フロアブル	収穫前日	2000倍	3回以内
		バイジット粒剤	収穫45日前	9kg/10a	株元・3回
		モスピラン水溶剤	収穫7日前	4000倍	3回以内
		トレボン乳剤	収穫14日前	1000倍	3回以内
		コロマイト乳剤	収穫7日前	1000倍	2回以内
		マイトコーネフロアブル	収穫3日前	1000倍	1回以内
植付前・後	一年生雑草	トレボン粉剤DL	収穫14日前	4kg/10a	3回以内
		クレマトU粒剤	植付後萌芽前	4～6kg/10a	表面・1回
		トレファノサイド粒剤2.5	植付直後	4～6kg/10a	表面・1回
		ブリグロックSL	植付前	600～1000ml	畦間・3回

- ※ 丸いもは、やまのいもに分類される。上記以外の農薬等を使用する場合はラベルのやまのいもを参考にする。

農薬の使用の際は使用方法等を厳守する。